



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月9日

上場会社名 株式会社 共立メンテナンス 上場取引所 東
コード番号 9616 URL <https://www.kyoritsugroup.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 幸治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 高久 学 TEL 03-5295-7778
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	151,096	17.0	13,583	99.0	13,320	102.6	7,930	91.4
2023年3月期第3四半期	129,131	22.9	6,825	—	6,575	—	4,143	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 8,120百万円 (58.9%) 2023年3月期第3四半期 5,110百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	203.30	174.44
2023年3月期第3四半期	106.27	91.01

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	262,831	81,688	31.1	2,093.76
2023年3月期	272,308	74,579	27.4	1,912.28

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 81,688百万円 2023年3月期 74,579百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2024年3月期	—	16.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	28.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

期末配当予想の修正については、本日（2024年2月9日）公表いたしました「連結業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	203,000	15.6	15,000	104.7	14,000	96.8	8,500	100.4	217.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2024年2月9日）公表いたしました「連結業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	39,219,818株	2023年3月期	39,219,818株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	204,812株	2023年3月期	219,668株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	39,009,041株	2023年3月期3Q	38,996,022株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載することとしております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響はほぼ解消したものの、資源・エネルギー価格の高騰、不安定な世界情勢を背景とした景気後退懸念など、依然として先行き不透明な状況が継続いたしました。

このような中、当社グループにおきましても食材費や人件費の上昇などの影響を受けましたが、留学生の入寮契約の回復・増加、全国旅行支援の延長、また、2023年10～12月における訪日外国人客数がコロナ前の2019年同期を上回る（出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」）など、インバウンドの力強い回復もあり、寮事業の堅調な業績貢献に加え、ホテル事業がコロナ前の同期間（2019年4～12月）の業績を上回り再成長のステージへと入りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は151,096百万円（前年同期比17.0%増）、営業利益は13,583百万円（前年同期比99.0%増）、経常利益は13,320百万円（前年同期比102.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7,930百万円（前年同期比91.4%増）と大幅な増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①寮事業

寮事業では、4月に全国で合計12事業所、1,037室を新たに開業いたしました。当社寮事業所の安心・安全性を改めてご評価いただき日本人学生の契約数が増加したことに加え、入国制限が解除され留学生の契約数が大幅に増加したことなどにより、期初稼働率は98.2%（前年と比べ4.7ポイント増）でのスタートとなりました。

この結果、売上高は38,351百万円（前年同期比4.5%増）となり、営業利益は3,834百万円（前年同期比35.2%増）となりました。

②ホテル事業

ホテル事業では、当期にドリーミン事業で『天然温泉 淡雪の湯 ドリーミン青森』、リゾート事業で『ラビスタ観音崎テラス』の2事業所をオープンいたしました。

入国制限の解除に伴う国際線の運航再開や増便、円安などによりインバウンドが大幅に増加したほか、国内におきましても出張やレジャー需要の増加に加え、全国旅行支援の延長などを背景とした中、海外で開催された旅行博でのPR活動や国内向け旅行キャンペーンの実施などの積極的な販売促進も功を奏し、高稼働・高単価にて推移いたしました。また、顧客満足度を重視したきめ細やかなサービスが評価され、当社ドリーミンが2023年度の日本版顧客満足度指数（JCSI）にビジネスホテル業種で4年連続1位に選ばれるなど、多くのお客様にご満足、ご支持をいただきました。

この結果、客室単価は過去最高を更新し、売上高は94,371百万円（前年同期比26.5%増）、営業利益は12,590百万円（前年同期比114.5%増）となりました。

なお、元日に発生した能登半島地震により、本日（2024年2月9日）時点でリゾートホテル1棟を休業しており、営業再開に向け安全第一で準備を進めております。

③総合ビルマネジメント事業

総合ビルマネジメント事業では、改修工事案件が増加したことなどにより、売上高は16,098百万円（前年同期比30.2%増）となり、営業利益は519百万円（前年同期比133.2%増）となりました。

④フーズ事業

フーズ事業では、ホテルレストランの受託案件が増加したものの、食材費や人件費の増加などにより、売上高は8,281百万円（前年同期比18.4%増）となり、営業利益は156百万円（前年同期比12.0%減）となりました。

⑤デベロップメント事業

デベロップメント事業では、不動産の売却により増収となったものの、新築工事案件が減少したことなどにより、売上高は1,275百万円（前年同期比36.2%増）となり、営業利益は59百万円（前年同期比39.2%減）となりました。

⑥その他事業

その他事業は、シニアライフ事業（高齢者向け住宅の管理運営事業）、PKP事業（自治体向け業務受託事業）、単身生活者支援事業、保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業であります。これらの事業の合計は、売上高は12,021百万円（前年同期比2.8%増）、利益に関しましてはシニアライフ事業における新規開業の影響などにより236百万円の営業損失（前年同期は70百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、262,831百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,476百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少などによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、181,143百万円となり、前連結会計年度末に比べ16,585百万円の減少となりました。主な要因は、その他(未払金)、長期借入金の減少などによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、81,688百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,108百万円の増加となりました。主な要因は、利益剰余金の増加などによるものであります。

この結果、自己資本比率は31.1%となり、前連結会計年度末に比べ3.7ポイントの増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月9日公表の予想数値に当第3四半期連結会計期間の大幅な業績改善を見込んでおりましたが、円安などを背景に訪日外国人客数がコロナ前の同期間(2019年10~12月)を超過し、想定をさらに上回ったことなどが要因となり、ホテル事業の客室単価を強く押し上げました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間にて前回公表の利益予想を早期達成し、当第4四半期連結会計期間も好調な事業環境が継続するものと想定した上で、連結業績予想を上方修正することといたしました。

詳細につきましては、本日(2024年2月9日)公表いたしました「連結業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、2024年3月期を初年度とした中期経営計画『KYORITSU Growth Vision / Rise Up Plan 2028』につきましては変更ございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	56,027	38,931
受取手形、売掛金及び契約資産	15,211	16,361
販売用不動産	11,750	11,589
仕掛販売用不動産	6,873	8,027
未成工事支出金	95	705
その他	8,918	8,851
貸倒引当金	△74	△73
流動資産合計	98,802	84,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	47,643	49,078
土地	39,862	42,038
建設仮勘定	14,811	18,245
その他（純額）	4,637	4,703
有形固定資産合計	106,954	114,066
無形固定資産	4,154	4,265
投資その他の資産		
投資有価証券	3,525	3,930
差入保証金	18,581	19,059
敷金	19,915	20,391
その他	20,082	16,499
貸倒引当金	△113	△109
投資その他の資産合計	61,991	59,771
固定資産合計	173,100	178,103
繰延資産	405	335
資産合計	272,308	262,831

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,249	7,107
短期借入金	23,947	25,682
1年内償還予定の社債	4,880	4,880
未払法人税等	865	2,512
賞与引当金	1,935	1,783
役員賞与引当金	289	362
事業撤退損失引当金	—	870
その他	28,215	20,655
流動負債合計	67,383	63,854
固定負債		
社債	18,580	15,740
転換社債型新株予約権付社債	30,082	30,060
長期借入金	75,743	65,443
退職給付に係る負債	1,029	1,163
役員退職慰労引当金	255	257
その他	4,653	4,624
固定負債合計	130,345	117,289
負債合計	197,728	181,143
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,964	7,964
資本剰余金	12,862	12,920
利益剰余金	53,845	60,683
自己株式	△349	△327
株主資本合計	74,322	81,242
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	160	431
繰延ヘッジ損益	648	587
為替換算調整勘定	△589	△602
退職給付に係る調整累計額	36	30
その他の包括利益累計額合計	256	445
純資産合計	74,579	81,688
負債純資産合計	272,308	262,831

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	129,131	151,096
売上原価	104,130	114,046
売上総利益	25,001	37,050
販売費及び一般管理費	18,176	23,467
営業利益	6,825	13,583
営業外収益		
受取利息	81	87
受取配当金	67	99
その他	388	264
営業外収益合計	538	450
営業外費用		
支払利息	434	512
新型コロナウイルス対策費用	85	—
その他	268	201
営業外費用合計	788	713
経常利益	6,575	13,320
特別利益		
投資有価証券売却益	18	—
特別利益合計	18	—
特別損失		
事業撤退損失	—	768
その他	247	157
特別損失合計	247	925
税金等調整前四半期純利益	6,345	12,394
法人税等	2,201	4,463
四半期純利益	4,143	7,930
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,143	7,930

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	4,143	7,930
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	271
繰延ヘッジ損益	963	△61
為替換算調整勘定	△10	△13
退職給付に係る調整額	△7	△6
その他の包括利益合計	966	189
四半期包括利益	5,110	8,120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,110	8,120

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	寮	ホテル	総合ビル マネジメ ント	フーズ	デベロッ プメント	計				
売上高										
外部顧客への売上高	36,456	74,529	5,604	947	369	117,907	11,223	129,131	—	129,131
セグメント間の内部 売上高又は振替高	249	94	6,756	6,044	567	13,713	464	14,177	△14,177	—
計	36,706	74,624	12,361	6,992	936	131,620	11,688	143,309	△14,177	129,131
セグメント利益 又は損失(△)	2,835	5,870	222	177	97	9,204	70	9,274	△2,449	6,825

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シニアライフ事業(高齢者向け住宅の管理運営事業)、PKP事業(自治体向け業務受託事業)、単身生活者支援事業、保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業、その他の付帯事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△2,449百万円には、セグメント間取引消去105百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,554百万円が含まれております。全社費用は主に本社の経理部等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	寮	ホテル	総合ビル マネジメ ント	フーズ	デベロッ プメント	計				
売上高										
外部顧客への売上高	38,175	94,272	5,370	1,265	477	139,561	11,535	151,096	—	151,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	176	98	10,728	7,015	798	18,817	486	19,304	△19,304	—
計	38,351	94,371	16,098	8,281	1,275	158,379	12,021	170,401	△19,304	151,096
セグメント利益 又は損失 (△)	3,834	12,590	519	156	59	17,159	△236	16,923	△3,339	13,583

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シニアライフ事業（高齢者向け住宅の管理運営事業）、PKP事業（自治体向け業務受託事業）、単身生活者支援事業、保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業、その他の付帯事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△3,339百万円には、セグメント間取引消去△322百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,017百万円が含まれております。全社費用は主に本社の経理部等の管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。